

児童福祉学科

■ 児童福祉学科 目次

教養科目

文章表現実践	1
日本国憲法	2
情報科学	3
外国語 A	4
外国語 B	5
体育（講義）	6
体育（実技）	7

保育の本質・目的に関する科目

保育原理	8
教育原理	9
子ども家庭福祉	10
社会福祉	11
子ども家庭支援論	12
社会的養護 I	13
保育者論	14

保育の対象の理解に関する科目

保育の心理学	15
子ども家庭支援の心理学	16
子どもの保健	17
子どもの理解と援助	18
子どもの食と栄養	19

保育の内容・方法の理解に関する科目

保育の計画と評価	20
保育内容総論	21
子どもと健康	22
子どもと人間関係	23
子どもと環境	24
子どもと言葉	25
子どもと表現	26
子どもと音楽	27
子どもと造形	28
乳児保育 I	29
乳児保育 II	30
障害児保育	31
社会的養護 II	32
子育て支援	33
子どもの健康と安全	34

保育実習

保育実習 I・施設	35
保育実習 I・保育所	36
保育実習指導 I・施設	37
保育実習指導 I・保育所	38

総合演習	
保育実践演習 I	39
保育実践演習 II	40
保育に関する科目	
障害児の心理	41
障害児の病理と保健	42
家庭生活基礎	43
リハビリテーションの理論と技法	44
子どもと感理解	45
子どもと音楽表現 A	46
子どもと音楽表現 B	47
子どもと造形表現	48
子どもと体育	49
保育内容応用演習	50
保育実習	
保育実習 II	51
保育実習 III	52
保育実習指導 II	53
保育実習指導 III	54
特設科目	
施設基礎実習	55
保育所基礎実習	56
レクリエーション援助技術	57
障害者スポーツ指導員養成講座	58
障害児（者）の音楽活動の支援	59

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	文章表現実践 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	廣本 勝裕
概要及び目的	多様な題材による総合的な表現と理解の実践を中心に、様々な種類の文章がわかりやすく適切に書けるようになることを目的とします。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現実践』の学習内容を把握しよう。」 2. 表現と理解の基礎（1） 「日本語の成り立ちと特徴を理解し、文章表現の基本を確認しよう。」 3. 表現と理解の基礎（2） 「漢字・仮名・その他の記号を適切に活用しよう。」 4. 適切に表現し理解するために（1） 「文章の特長を踏まえてテーマを決め、形式を整えて記述しよう。」 5. 適切に表現し理解するために（2） 「構成を工夫し、明確な根拠に基づいて自分の意見を展開しよう。」 6. 適切に表現し理解するために（3） 「情景や心情の描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」 7. 表現と理解を広げるために 「語句・語彙（熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等）を充実しよう。」 8. 表現と理解を確かにするために 「表現技法（修辞法）を活用し、状況や情景を的確に伝えよう。」 9. 表現と理解を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章力の向上を図ろう。」 10. 敬語法の理解と敬語表現の実践 「相手や場面を念頭に置いた敬語の基本的な使い方を習得しよう。」 11. 各種の情報の理解をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を読み取り、分析・検討を行おう。」 12. 様々な文章形態の表現と理解（1） 「短編小説の様々な手法を参考に、物語を創作しよう。」 13. 様々な文章形態の表現と理解（2） 「形式を整え、相手の心に響く手紙を書こう。」 14. 様々な文章形態の表現と理解（3） 「正しくわかりやすく伝えるための告知の在り方を検討しよう。」 15. まとめの学習 「『文章表現実践』の学習を振り返り、成果と課題を確認しよう。」 		
評価方法	<p>◎「各授業で取り組んだ課題の提出状況」</p> <p>◎第 15 時間目の「まとめの学習」の達成状況</p>		
テキスト	○授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。		
備考	<p>○授業には、「国語辞典（電子辞書）」（※現在持っているものでよい）を持参してください。</p> <p>○授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」（厚さ 1.5cm 程度の標準的なものでよい）を 1 部用意してください。</p>		

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	日本国憲法 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	大田 晋
概要 及び 目的	<p>我われは、社会に生きている限り何らかのルールの中で生きている。そのルールこそが「法」であり、共通の約束事である。「法」にはさまざまな種類があるが、その頂点に立つものが「憲法」である。講義では、はじめに「法・法律」全般について学び、次に「日本国憲法」について国民主権、基本的人権、平和主義、国家統治機構などについて詳しく学習する。</p> <p>こうした学習を通して、国民として「社会と法、個人と法」の関係を理解し、また、社会人として「自由と責任、権利と義務」の正しい認識と判断ができる人間に近づくことを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のオリエンテーション（講義概要、講義の狙い、講義の受け方など） 2. 「法」とはなにか ～ 意味、役割、理解の仕方 3. 「法」の分類と体系 4. 法律と国民生活（社会） 5. 刑法 6. 民法 7. 憲法 ～ 意味、全体像 8. 憲法 ～ 憲法とはどのように作られたか 9. 憲法 ～ 国民主権 10. 憲法 ～ 基本的人権（総論） 11. 憲法 ～ 基本的人権（各論） 12. 憲法 ～ 平和主義（戦争放棄） 13. 憲法 ～ 国家統治機構（1） 14. 憲法 ～ 国家統治機構（2） 15. 終講試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験 2. レポート 3. 出席状況 		
テキスト	<p>教科書なし。参考書「目で見える憲法」（第4版、初宿正典ほか、有斐閣、2014） 但し、「日本国憲法」（童話社）を購入のこと。</p>		
備考	<p>毎回配布するB5判の講義レジュメをA4判大学ノート左ページに貼り、右ページに講義で聞いたことを書き取るにより自分のノートを作成する。（ノートのみ終講試験時に持込み可）</p>		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	情報科学 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	上田 千恵
概要 及び 目的	<p>児童福祉現場におけるコンピュータ利用は様々であり、増加傾向である。園便り、児童票はもちろん、写真やビデオを取り込んで発表会などで利用するムービーを作成など、コンピュータ利用知識と技術の修得が必要となってきた。そこで、本科目では、ワープロソフトや表計算ソフトの利用を中心に、画像の扱い方なども演習を通して習得する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本操作、現場での利用について 2～3. 情報社会とネットワーク 4. 画像・映像の扱いについて 5～6. ワープロソフトの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・レポートや報告書などの作成 7～9. ワープロソフトの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・園便りの作成 10. 表計算ソフトの利用 <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや住所録などの作成 11. 表計算ソフトの利用 <ul style="list-style-type: none"> ・条件でのデータの絞り込み 12. ワープロソフトでの表計算ソフトのデータ利用 <ul style="list-style-type: none"> ・宛名などの作成（住所録から差込印刷） 13～14. スライド作成ソフトの利用 15. まとめ テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（作品）に対する取組み 2. レポート、授業の確認テスト 3. 授業参加度（出席、受講態度など） 		
テキスト	<p>教科書：「30 時間アカデミック」 情報リテラシー Office2019 その他：必要があれば関連資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	外国語 A 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	宮宅 由美子
概要 及び 目的	園生活のさまざまな場面に対応できる英語表現を習得すると共に、子供と一緒に遊べる英語ゲーム、歌、手遊びができるように演習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Self-Introduction & Greetings 2. The School Year Begins 3. Arrival 4. Playtime in the Classroom 5. In the Sandbox 6. In the Playground 7. Lunch time 8. Changing Clothes and Story Time 9. Nap Time 10. Blowing Bubbles 11. A Sick Child 12. Preparation for the Sports Day 13. The Sports Day 14. Going for a Walk 15. まとめ、テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. 受講態度・出席点 3. 発表点他 		
テキスト	教科書：「新保育の英語」三修社 必要に応じて資料を配布する		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	外国語 B 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	BENJAMIN DUNN PINKERTON
概要 及び 目的	<p>外国人に話しかけられて、簡単な受け答えができるようになることを目標とする。 基本の単語を使って、ゲームなどをし、言いまわしや単語を覚えていく。 学外でのネイティブの方との交流活動も実施する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. COLORS 2. BODY 3. CAN 4. HAVE 5. PLEASE 6. BEARHUNT 7. HALLOWEEN 8. CHRISTMAS 9. MOCHI NEW YEARS 10. HELLO & ALTERNATIVE GREERINGS 11. BEDROOM, HOUSE & TOWN 12. EVERYDAY : MORNING, AFTERNOON, NIGHT 13. 5SENSES : LOOK, LISTEN, SMELL, TASTE, TOUCH 14. LIKE 15. SKYPE ONLINE COMMUNITY, NETWORKING 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. 出席点 3. レポート 		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	体育(講義) 必修・講義・15時間・1単位	教員名	葛城 智子
概要 及び 目的	健康や運動についての基礎的理論を理解し、生涯を通じて健康的な生活の設計を主体的に実践できる力を養う。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における体育教育 2. 現代社会と健康 3. 運動の生理 4. 運動の基礎理論 5. 生活と運動 6. 運動処方 7. 健康な生活の設計 8. まとめ、テスト 		
評価方法	筆記試験、遅刻、早退、受講態度の総合で評価する。		
テキスト	長谷川 定宣 「健康科学」		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科																														
科目名	体育(実技) 必修・実技・30時間・1単位	教員名	南波 紀子																														
概要 及び 目的	多種のスポーツ種目を通して、技術の習得、体力の維持増進を図る。また、ニュースポーツも体験、理解する。																																
授業内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、学習評価の方法</td> </tr> <tr> <td>2. 体力チェック</td> <td>施設、用具の使い方を説明する基礎運動</td> </tr> <tr> <td>3. ソフトバレーボール</td> <td>現時点での自己体力確認</td> </tr> <tr> <td>4. バレーボール</td> <td>基礎技能の習得</td> </tr> <tr> <td>5. 体力づくり運動</td> <td>ルール説明、ゲーム、審判バレーボール</td> </tr> <tr> <td>6. 卓球</td> <td>基礎技能</td> </tr> <tr> <td>7. 卓球</td> <td>ルール説明、ゲーム、審判</td> </tr> <tr> <td>8. ニュースポーツ</td> <td>屋内</td> </tr> <tr> <td>9. 水泳実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 水泳実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. ニュースポーツ</td> <td>屋外</td> </tr> <tr> <td>12. 縄</td> <td>短縄</td> </tr> <tr> <td>13. 縄</td> <td>大縄</td> </tr> <tr> <td>14. バドミントン</td> <td>基礎技能の習得</td> </tr> <tr> <td>15. バドミントン</td> <td>ルール説明、ゲーム、審判</td> </tr> </table>			1. オリエンテーション	授業の進め方、学習評価の方法	2. 体力チェック	施設、用具の使い方を説明する基礎運動	3. ソフトバレーボール	現時点での自己体力確認	4. バレーボール	基礎技能の習得	5. 体力づくり運動	ルール説明、ゲーム、審判バレーボール	6. 卓球	基礎技能	7. 卓球	ルール説明、ゲーム、審判	8. ニュースポーツ	屋内	9. 水泳実習		10. 水泳実習		11. ニュースポーツ	屋外	12. 縄	短縄	13. 縄	大縄	14. バドミントン	基礎技能の習得	15. バドミントン	ルール説明、ゲーム、審判
1. オリエンテーション	授業の進め方、学習評価の方法																																
2. 体力チェック	施設、用具の使い方を説明する基礎運動																																
3. ソフトバレーボール	現時点での自己体力確認																																
4. バレーボール	基礎技能の習得																																
5. 体力づくり運動	ルール説明、ゲーム、審判バレーボール																																
6. 卓球	基礎技能																																
7. 卓球	ルール説明、ゲーム、審判																																
8. ニュースポーツ	屋内																																
9. 水泳実習																																	
10. 水泳実習																																	
11. ニュースポーツ	屋外																																
12. 縄	短縄																																
13. 縄	大縄																																
14. バドミントン	基礎技能の習得																																
15. バドミントン	ルール説明、ゲーム、審判																																
評価方法	出席と受講態度、課題テストを総合評価する																																
テキスト	特になし 必要に応じてプリントを配布																																
備考	スポーツウェア、屋内、屋外シューズ、ゼッケンの用意																																

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育原理 必修・講義・30時間・2単位	教員名	小合 明美
概要 及び 目的	<p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>保育所保育の特性は、子どもの最大の利益を考慮し、教育と養護が一体となった保育実践を提供していくことにある。本授業では、そのような保育実践の背景にある「基本原理・思想」を理解するとともに、保育を取り巻く社会状況、歴史、制度など保育に関する「社会認識」を深める。また、それらの学習を踏まえ、「保育の実践原理」についての学習を丁う。</p>		
授業内容	<p>保育の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の理念と概念 2. 保育の対象としての子ども 3. 福祉としての保育保育の基本原理 4. 保育所保育指針の考え方 5. 発達過程に応じた保育 6. 保育実践の構成原理 保育の内容と方法 7. 保育のねらいと内容 8. 遊びと環境構成 9. 保育実践における PDCA サイクル 10. 保育の思想史 11. 日本の保育の制度史（戦前） 12. 日本の保育の制度史（戦後）保育の現状と課題 13. 保育における地域連携 14. 保護者支援における保育士の役割 15. 保育業務の全体像 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. 出席点、受講態度 3. レポート 		
テキスト	<p>教科書 池田隆英編著『なぜからはじまる保育原理』建帛社 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド社)</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	教育原理 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	橋原 靖
概要 及び 目的	<p>本講は、まず“教育とは、人とは”の考察、更に“人の発達過程”について考える。次に、厚生労働省が提示している、保育士養成のためのカリキュラムに基づいて、教育学の基礎理論の学習を行う。</p> <p>①教育の意義 目的および こども家庭福祉等 との関わりについて ②教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について ③教育制度について ④教育実践の様々な取り組みについて ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について学習する。</p>		
授業内容	<p>単元Ⅰ オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ保育士をめざす為に「教育原理」が必要なのか？ 教育的支援者としての保育士 2 教育は人類に何をもたらしたのか？ 教育とは？ 教育の発生と果たす役割 生物の遺伝、著作「エミール」(ルソー)、生理的早産説 (ポルトマン) <p>単元Ⅱ 人の発達過程の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 人の発達段階と発達課題 一般的な発達を知り、各支援に生かす 4 認知・自己の発達・対人関係の発達について ピアジェ (認知能力の発達) エリクソン (自己意識の発達) ホスピタリズムと愛情形成論 (ボルビイー) <p>単元Ⅲ 教育の意義 目的および 子ども家庭福祉等 との関わりについて理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 教育の意義 6 教育の目的 7 乳幼児期の教育の特性 (追加) 8 教育と子どもの家庭福祉の関連性 (元 児童福祉等 から変更) 9 人間形成と家庭・地域・地域社会等との関連性 <p>単元Ⅳ 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 10 諸外国の教育の思想と歴史 11 日本の教育の思想と歴史 12 子ども観と教育観の変遷 <p>単元Ⅴ 教育制度について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 13 教育制度の基礎 14 教育法規・教育行政の基礎 15 諸外国の教育制度 <p>単元Ⅵ 教育実践の様々な取り組みについて理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 16 教育実践の基礎理論 (内容・方法・計画と評価) 17 教育実践の多様な取り組み (モンテソーリ理論・シュタイナー幼稚園) <p>単元Ⅶ 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 18 生涯学習社会と教育 19 現代の教育課題 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 2. 講義内レポート 3. テスト 		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布。 マーカー、A4 の 2 穴ファイル用意しておいてください。</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	子ども家庭福祉 必修・講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平
概要 及 目的	<p>子ども家庭福祉に関する歴史的な流れや児童福祉の意義を学び、現代社会における子どもやその保護者が抱える多様な問題に対する考察を深める。そして、一人ひとりの子どもが心身ともに健やかに発達・成長するために必要な支援、子どもにとって大切な存在である保護者を支えるために必要な支援を学ぶ。</p> <p>そして、子どもの権利を保障することを通して、子どもの最善の利益を実現することが可能な社会について考えることを目指していく。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 3. 子どもの人権擁護 4. 子ども家庭福祉の制度と実施体制 5. 子ども家庭福祉の施設と専門職 6. 少子化と地域子育て支援 7. 母子保健と子どもの健全育成 8. 多様な保育ニーズへの対応 9. 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 10. 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応 11. 社会的養護 12. 障害のある子どもへの対応 13. 少年非行等への対応 14. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 15. まとめと試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. レポート 3. 出席状況・受講態度 		
テキスト	<テキスト>中央法規出版 新基本保育シリーズ 子どもと家庭福祉		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	社会福祉 必修・講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平
概要及び目的	<p>私たちの生活にとって社会福祉は重要な存在であり、一人ひとりの権利を主体として捉えて、私たちの生活を支えている。保育士は社会福祉を支えるための重要な専門職であり、社会福祉の価値観を学ぶこと、社会福祉に関する基本的知識を理解すること、私たちの生活を知ることが必要である。それらのことを学ぶことによって、社会福祉を支える専門職としての専門性を養う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と歴史の変遷 2. 子ども家庭支援と社会福祉 3. 社会福祉の制度と法体系 4. 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 5. 社会福祉の専門職 6. 社会保障および関連制度の概要 7. 相談援助の理論 8. 相談援助の意義と機能 9. 相談援助の対象と過程 10. 相談援助の方法と技術 11. 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 12. 少子高齢化社会における子育て支援 13. 共生社会の実現と障害者施策 14. 在宅福祉・地域福祉の推進 15. まとめと試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. レポート 3. 出席状況・受講態度 		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布</p> <p>中央法規出版 新基本保育シリーズ 社会福祉</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子ども家庭支援論 必修・講義・30時間・2単位	教員名	花房 香
概要 及び 目的	<p>本講義では、現代社会において多様化する家族の様相を知るとともに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援のあり方について学習する。家族の意義とその機能、また現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援サービスなどを理解し、保育現場で求められる支援のあり方について学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何か 2. 家族の意義 3. 家族の機能 4. 現代家庭の現状と課題 5. 家庭支援のあり方 6. 家庭と子育て 7. 家庭生活を取り巻く社会的状況 8. 現代家庭の人間関係 9. 地域社会の変容と家庭支援 10. 現代における子育て家庭への支援 11. 子育て家庭への支援政策 12. 保育からみた子育て家庭への支援 13. 子育て家庭支援のための関係機関連携 14. 保育現場での家庭支援の現状 15. 保育現場での今後の家庭支援のあり方 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート点 2. 試験 3. 出席点 		
テキスト	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」ミネルヴァ書房		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	社会的養護 I 必修・講義・30時間・2単位	教員名	高才 彰
概要及び目的	<p>社会的養護とは、何らかの事情のため生まれた家庭や親の元で育つことができない児童を国や社会が公的責任で保護し養育する社会システムを指す。社会的養護の充実度合がその国の文化のバロメーターともいわれる。近年の「子どもの貧困」や「児童虐待」の顕在化に伴い、社会的養護の役割は重要性を増している。</p> <p>授業では、社会的養護の現代的意義、その歴史と児童の権利の進展、児童福祉法等による制度整備と実施体系、従事する保育士や専門職員の業務、社会的養護の現状と課題について理解することを目的とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護と保育士 2. 社会的養護のなりたち（児童福祉法制定以前） 3. 社会的養護のなりたち（児童福祉法制定以後） 4. 子どもの権利と社会的養護 5. 社会的養護の基本的な考え方 6. 社会的養護にかかわる法律 7. 社会的養護の制度 8. 社会的養護の施設 9. 施設養護と専門職 10. 施設養護における保育士の支援 11. ファミリーソーシャルワークと自立支援計画 12. 家庭養護の種類と特徴 13. 施設の運営 14. 社会的養護の課題 15. 児童福祉施設の支援者としての保育士 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中に行う小テスト（配点20点） ② 学期末試験（配点80点） <p>①と②の合計点で成績評価をします。</p>		
テキスト	<p>新版 保育士をめざす人の社会的養護 I 編集 辰巳 隆・波田埜 英治 ISBN978-4-86015-493-6（株式会社みらい）</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育者論 必修・講義・30時間・2単位	教員名	溝口 佳代
概要 及び 目的	<p>保育所・幼稚園で働く保育者の専門性について理解を深める。 保育者としての責務・専門性等を理解したうえで、自分なりの保育者像をつくりあげ、理論的に考え、実践に結びつけることのできる能力を培う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 「保育士」像 2. 保育者の役割 3. 保育者の倫理 4. 1) 保育者の資格と責務 2) 養護と教育の一体的展開 5. 保育者の資質・能力 6. 保育者の専門性・自己評価 7. 保育者の協働・保小の連携 8. 保育をとりまく現状 9～11. グループワーク 12. 発表 13～14. 子ども主体の保育とは 15. まとめ 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. レポート・出席点 3. 受講態度 		
テキスト	新 基本保育シリーズ「保育者論」 中央法規、矢藤誠慈郎 他 編		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育の心理学 必修・講義・30時間・2単位	教員名	花房 香
概要 及び 目的	<p>子どもの発達を心理学的視点から学ぶことを目的とする。発達理論、知覚、学習、思考の発達、社会的行動の発達など、さまざまな側面から人間の発達について学び、子どもを理解し、適切な保育、教育が行なえるようになることを目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育と心理学の関連 2. 発達心理学と保育 3. 身体の発達 4. 知的な発達 5. 情緒の発達 6. 人格の発達 7. 対人関係の心理学と保育 8. ことばの発達 9. ことばと対人関係 10. 保育とことば 11. 数についての発達と保育 12. 保育環境と保育 13. 遊びの発達 14. 遊びと保育 15. 保育施設での関わり 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点 		
テキスト	無藤隆 他編 新プリマーズ「発達心理学」 ミネルヴァ書房		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子ども家庭支援の心理学 必修・講義・30時間・2単位	教員名	槌田 佳菜子
概要 及び 目的	<p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</p> <p>家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に促える視点を習得する。</p> <p>子育て家庭をめぐる現代社会の状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期の発達 2. 幼児期の発達 3. 学童期の発達 4. 青年期の発達 5. 成人期・中年期の発達 6. 高齢期の発達 7. 家族・家庭の意義と機能 8. 家族関係・親子関係の理解 9. 子育ての経験と親としての育ち 10. 子育てを取り巻く社会的状況 11. ライフコースと仕事・子育て 12. 多様な家庭とその理解 13. 特別な配慮を要する家庭 14. 子どもの生活・生育環境とその影響 15. 子どもの心の健康に関わる問題 		
評価方法	授業への積極的参加及び終講試験で評価する。		
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」 中央法規出版 2019		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもの保健 必修・講義・30時間・2単位	教員名	山口 玲子
概要 及び 目的	<p>子供の健康に関する保健活動や子供の発育発達について理解し、子どもの健康観察や異常の早期発見、感染症予防、疾病時の対応など保育現場における保健活動に必要な知識を習得する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2. 健康の概念と健康指標 3. 現代社会におえる子どもの健康に関する現状と課題 4. 地域における保健活動と子ども虐待防止 5. 身体発育及び運動機能の発達と保健 6. 生理機能の発達と保健 7. 健康状態の観察 8. 発育・発達の把握と健康診断 9. 保護者との情報共有 10. 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気 11. 主な疾病の特徴② 術環器、呼吸器、血液、消化器の病気 12. 主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫の病気、腎泌尿器、内分泌の病気 13. 主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の疾患 14. 主な疾病の特徴⑤ 感染症 15. 子どもの疾病と予防と適切な対応 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験（小テストを含む） 2. 出席状況 3. 受講態度 		
テキスト	<p>子どもの保健 中央法規出版 その他、必要に応じて資料配布する</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもの理解と援助 必修・演習・30時間・1単位	教員名	鈴木 晶子
概要 及び 目的	<p>一人一人の子どもの気持ちを理解し、必要な援助を行うことができる保育士を目指し、そのために不可欠なコミュニケーション技法や人間理解のためのさまざまな視点を心理学の理論を用いて解説する。</p> <p>また、演習を通じて自己理解を深め、事例を通じて子ども理解を深めていく。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己理解について・演習 2. 他者理解について・演習 3. 集団と人間 4. 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 5. アサーション、傾聴 6. ロジャーズ、アクスラインの原則 7. 中間テスト 8. 保護者理解と子育て支援 9. 児童虐待 10. ストレス 11. 子どものストレス反応 12. 発達障害 13. 特別なニーズのある子どもへの支援 14. 発達の連続性と就学支援 15. 終講テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト 2. レポート 3. 受講態度 		
テキスト			
備考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育内容総論 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	小合 明美
概要及び目的	<p>保育内容や歴史的変遷等、保育の全体的構造、また、子どもの主体性を育むことを基本としながら、保育が養護と教育の一体的な展開であることを学ぶ。そして、環境構成や援助を行う実践力、子どもとの総合的な関わりができるようにする。</p> <p>保育所、幼稚園、認定こども園の保育の基本と、保育内容の理解とともに保育の専門性、今後の保育内容の課題を学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容とは 2. 保育内容の歴史的変遷と保育生活の全体的構造 3. 発達のとらえ方と保育内容 4. 保育内容における遊びの意味 5. 保育の一日と内容 6. 多様な保育・子育て支援の展開 7. 乳児保育 8. 長時間の保育 9. 病児・病後児保育・特別な支援を必要とする子どもの保育 10. 多文化共生の保育 11. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携 12. 保育内容と子ども理解 13. 保育内容の今日的課題と保育者の専門性 14. 今後の保育内容の課題と展望 15. テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. 課題 3. 学習態度 4. 出席点 		
テキスト	<p>教科書：咲間まり子 コンパス保育内容総論（建吊社） 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 （チャイルド本社）</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと健康 必修・演習・30時間・1単位	教員名	野村 恵里
概要 及び 目的	<p>領域「健康」のねらいと内容を理解するとともに、乳幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な情報および乳幼児の怪我や疾病への対応を学ぶ。また、乳幼児が経験から身につける基本的な生活習慣や健康で安全に生活するための保育環境、安全教育に関する援助、指導を学ぶ。</p> <p>幼児の運動遊びの知識を学び、計画、実践することにより、保育者としての援助、指導技術を養う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 2. 領域「健康」のねらい及び内容 3. 〃 4. 幼児の発育・発達 5. 幼児の生活習慣と健康 6. 幼児の健康維持・増進のための身体活動 7. 保育における運動指導と留意点 8. 運動遊びの指導上の留意点 9. 健全な発育・発達の測定と評価方法 10. 安全管理と安全教育・応急処置法 11. ちょっとした工夫で広がる運動遊び 12. 運動遊びの実践 13. 〃 14. 〃 15. まとめとテスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 試験 3. 出席点 4. 受講態度 		
テキスト	<p>教科書：春日 晃章「保育内容 健康」 みらい 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと人間関係 必修・演習・30時間・1単位	教員名	鈴木 晶子・室崎 美佐子
概要 及び 目的	現代社会において、子どもが人との関わりの中で成長し自立していく過程を理解し、その過程における保育者としての役割やかかわり方について講義と演習を通して学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」とは 2. 子どもを取り巻く社会の状況 3. エリクソンの発達理論 4. 0～2歳児の人との関わりと保育者の援助 5. 3～5歳児の人との関わりと保育者の援助 6. 愛着理論 7. 遊びと仲間 8. 子どもの自立 9. 思いやりと道徳性、規範意識 10. 子どもを取り巻く人間関係 11～14. 演習（時期は未定） 15. テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 試験 3. 受講態度 		
テキスト	塚本美知子「人間関係」萌文書林		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと環境 必修・演習・30時間・1単位	教員名	西原 嘉子
概要 及び 目的	乳幼児期の保育にとって環境が重要な要素になっていることを理解する。さらに子どもの健全な発達には、どのような環境を準備設定するか、また、人的環境・物的環境を中心にその環境への子どもの関わり方はいかにあるべきかを実践も踏まえながら「環境とかかわる力」を育てる保育内容について学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身を取り巻く環境、園の環境 2. 領域「環境」について 3. 子どもの生活と環境との関わり 4. 園の環境構成 5. 物との関わりと遊び 6. 自然環境との関わり 7. サツマイモの苗の植えつけ 8. 数量と図形との関わり 9. 幼児と文字、標識との関わり 10. 科学との出会いと環境 11. 保育と行事 12. 子どもを取り巻く社会環境 13. 障害児の保育環境 14. 環境教育、子どもを取り巻く情報メディア 15. テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題 2. 試験 3. 受講態度 4. 出席点 		
テキスト	教科書：[新版] 保育内容 環境 無藤隆・中坪史典・後藤範子 編著 大学図書出版 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド社) 「保育学用語辞典」秋田喜代美 監修 (中央法規)		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと言葉 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	西原 嘉子
概要 及び 目的	<p>領域「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者として基本的な知識や言葉の役割などを学ぶ。また、乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、自ら主体的に話したい、聞きたいという意欲や態度を育むための保育者としての援助、指導を学ぶ。</p> <p>保育実践に活かせる力をつけるため、児童文化財について具体的に学び、グループワーク、模擬保育を取り入れ、保育者としても技術を養う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「言葉」の意義 2. 領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」 3. 子どもの言葉の発達 4. 子どもの言葉と環境 5. 保育者の指導・支援 6. 言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援 7. 保育者の言葉 8. 児童文化財 (1) 9. 〃 (2) 10. 〃 (3) 11. 児童文化財の実践 12. 〃 13. 〃 14. 「言葉」の指導計画 発展事例 言葉と国語教育 15. まとめとテスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 試験 3. 出席点 4. 受講態度 		
テキスト	<p>教科書：駒井美智子 保育者をめざす人の保育内容「言葉」みらい 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと表現 必修・演習・30時間・1単位	教員名	大下 諭史 他
概要 及び 目的	乳幼児の音楽的発達をふまえて、見たり、聞いたり、感じたことを表現する方法について理解を深め、歌唱・器楽・鑑賞・動きのリズムなどの指導に必要な基礎的知識と表現能力を発達させるための関わり方を学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表行事に向けて リズム打ち、リズム遊びの体験 2～4. 発表行事に向けての内容決め 5～8. グループに分かれて練習 9～13. グループ練習 全体練習 14～15. 発表行事準備、本番 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 2. 実技内容 3. 受講態度 		
テキスト	必要に応じてプリント配布		
備考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと音楽 必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	大下 諭史
概要 及び 目的	音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を読み、理解力を伸ばすとともに、音楽的表現力、個性を生かした音楽活動ができるようにする。楽器演奏や歌唱を通して、コードネームの習得、単純な伴奏法を身につけ、保育者としての音楽能力を習得する。更には、実践展開のための音楽技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレージング等）を体得する。		
授業内容	1 ～ 3. 基礎知識とト音記号・ヘ音記号 4 ～ 5. 譜表 6. 音符の長さとその種類 7. 休符の長さとその種類 8. リズムとリズム譜 9. 臨時記号とその種類 10 ～ 11. テンポ用語 12 ～ 13. 強弱の変化・曲想・奏法についての用語と記号 14. 反復記号 15. まとめ・試験 16 ～ 18. 音程 19 ～ 20. 音階 21 ～ 22. 和音・コードネーム 23. 試験 24 ～ 27. 音楽鑑賞 28. 和音・移調 29. 合奏・楽器、まとめ 30. ピアノ実技試験（和音・移調）		
評価方法	1. 試験 前期：筆記、後期：筆記・実技 2. 出席点 3. 受講態度 4. その他（ノート・ワークブック提出）		
テキスト	教科書：小林美実監修、井戸和秀編『子どものうた 100』チャイルド社 「こどものうた 130 + 20」YAMAHA 橋本晃一編 ピアノ弾けるよ！楽典ワーク ドレミ楽譜出版社 その他：必要に応じてプリントを配布、VTR 使用		
備考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと造形 必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	野村 恵里・橋原 靖
概要及び目的	<p>造形活動の基礎を体験通して、その後の実際の保育のための造形活動に資する知識・技能を養う。</p> <p>実技・演習等を通して、造形の基礎技能の取得と、素材・用具の取り扱い方についての習熟を図り、保育士に必要な造形表についての理解・教養を深める。</p>		
授業内容	<p>(担当：橋原)</p> <p>1～3. 平面</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 紙について 2) 鉛筆を使う (削る) フリーハンドの線による平面構成 3) 定規を使って線を引く 直線による平面構成 4) フロッタージュ・コラージュ・エンボス 5) 素描 (立方体など) <p>4～6. 色彩</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 三属性・色相環 2) 色の見え方 (対比、進出後退、膨張収縮、視認性) 3) 色と感情 (寒色暖色、軽重、硬軟、派手地味、陽気陰気) 4) トーン別配色・色彩調和論 5) 色彩による平面構成 <p>7～9. 立体</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テクニカルイラストレーション (等角図) 2) パース (1 点・2 点透視図) 3) 素描 (鉛筆による) 4) 素描 (粘土による) <p>10～11. レタリング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レタリングの構成要素を知る (永字八法) 2) ゴシックの構成要素 3) 明朝の構成要素 4) レタリングによる平面構成 <p>(担当：野村)</p> <p>12. オリエンテーション いろいろな画材を使って ①染め紙</p> <p>13. 〃 ②マーブリング</p> <p>14. 〃 ③野菜スタンプ</p> <p>15. 粘土造形 小麦粉粘土</p> <p>16. 画用紙を使って 壁面製作①</p> <p>17. 〃 ②</p> <p>18～20. 共同製作</p> <p>21. 季節の飾り作り</p> <p>22～24. 廃材を使って</p> <p>25～29. パネルシアター作り</p> <p>30. まとめとテスト</p>		
評価方法	<p>(橋原) 1. 出席点 2. 作品点 (毎時課題有)</p> <p>(野村) 1. テスト 2. 出席点を加味する 3. その他 (受講態度、作品の評価など)</p>		
テキスト	<p>幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 幼児期の終わりまでに身に付けたい造形道具の知識と技能が楽しくしぜんに育つ本 (著 竹井 史)</p> <p>必要プリント、課題用紙を配布</p>		
備考	<p>(橋原) 前時に次回必要用具・道具を連絡します。</p>		

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	乳児保育 I 必修・講義・30時間・2単位	教員名	室崎 美佐子
概要及び目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義、目的及び役割について学ぶ。 2. 保育所や多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。 4. 職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携について理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（本授業の進め方や授業方法などについて説明等を行う） 2. 乳児保育の目的と役割（乳児保育の目的と役割、実施体制などについて） 3. 乳児保育の基本（乳児保育の背景や歴史の変遷、子育て支援、地域や家庭とのつながりなどについて） 4. 0・1・2歳児の発達（0・1・2歳児の子どもの主な発達について） 5. 乳児（0歳児）の保育内容（乳児（0歳児）の保育内容について） 6. 1歳以上3歳未満児の保育内容（1歳以上3歳未満児の保育内容について） 7. 乳児の生活と遊びの基本的事項（乳児の生活と遊び、健康や安全、防災対策について） 8. 乳児の生活の基本（乳児の生活の基本（食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔）について） 9. 乳児の遊び（各年齢ごとの乳児の遊びや適したおもちゃについて） 10. 乳児保育の環境構成（乳児の年齢ごとの保育室での環境構成について） 11. 乳児保育における全体的な計画（乳児保育での全体的な計画と指導計画について） 12. 乳児保育における子育て支援（乳児保育での子育て支援や保護者への対応、支援の実際について） 13. 乳児保育における連携（乳児保育での職員・家族・地域での連携について） 14. 一人一人を健やかに育てていくために（乳児保育の重要性、保育者としての専門性と資質向上について） 15. 本授業でのまとめ（本授業で学んだことや学生自身の学びの確認） 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. レポート 		
テキスト	小山朝子編著・亀崎美佐子・善本真弓『講義で学ぶ 乳児保育』わかば社、2019		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	乳児保育Ⅱ 必修・演習・30時間・1単位	教員名	室崎 美佐子
概要 及び 目的	<ol style="list-style-type: none"> 3歳未満児の発育や発達を踏まえた援助や関わりの基本的な考えを理解する。 養護と教育の一体性を踏まえ、乳児保育における計画の作成について理解するとともに、生活や遊び保育の方法及び環境について学ぶ。 乳児保育における配慮の実際について学ぶ。 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス（本授業の進め方や授業方法などについて説明等を行う） 乳児保育の意義（養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について） 0～3歳までの発育・発達（0～3歳の各年齢の発達について） 食事の援助と環境（調乳や冷凍母乳の解凍、授乳、離乳食などの保育者の具体的な援助について） 排泄の援助と環境（おむつ交換からパンツへの移行、排泄への保育者の具体的な援助について） 睡眠・休息の援助と環境（子どもの睡眠や休息時の保育者の援助や保育環境などについて） 着脱に関する援助と環境（子どもの衣服や衣服以外（靴下や靴、帽子など）の着脱への保育者の援助について） 清潔に関する援助と環境（沐浴や清拭、手や顔を拭く洗う、鼻をかむ、うがい、歯みがきなどの援助について） 乳児保育における健康と安全（乳児保育での安全対策や事故防止、アレルギーへの対応、園外での遊びの対応、虐待、防災対策の実際について） 乳児（0歳児）の保育内容と遊び（乳児（0歳児）の保育内容、保育者の援助および乳児の遊びについて） 1歳以上3歳未満児の保育内容（1歳以上3歳未満児の保育内容、保育者の援助、環境の変化や移行について） 1歳以上3歳未満児の遊び（1歳児および2歳児の遊びとおもちゃや遊具について） 乳児保育における計画と評価（乳児保育における全体的な計画、長期指導計画、短期指導計画および評価について） 乳児保育を支える連携（乳児保育における職員間の連携、家庭との連携、地域との連携について） 本授業のまとめ（本授業で学んだことや学生自身の学びの確認） 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 試験 レポート 		
テキスト	善本眞弓編著・小山朝子・亀崎美佐子『演習で学ぶ 乳児保育』わかば社、2020		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	障害児保育 必修・演習・60時間・2単位	教員名	赤木 剛
概要及び目的	<p>文部科学省の調査によれば、義務教育段階において障害があり、特別な支援を受けている児童・生徒が約5%、普通学級内にも学習面や行動面で著しい困難を示す子どもが約9%在籍しているといわれている。加えて、貧困や虐待など、子どもの力だけでは変容不可な環境の中で、諸々の困難を抱えた子どもたちもいる。これらの子どもたちの理解をすることなく、子どもの支援現場は成立しない。</p> <p>本講義では、障害児をはじめ、「環境との相互作用」による困難を抱えた様々な子どもたちについて、支援のあり方を学んでいく。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害や支援が必要な状態を「環境との相互作用」の観点で捉える 2. 障害児や支援が必要な子どもを支える諸概念 (ノーマライゼーション、インクルージョンなど) 3. 障害児や支援が必要な子どもを支える福祉制度の変遷 4. 障害児や支援が必要な子どもを支える法律 (障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法など) 5～6. 「発達の視点」について 7～8. アセスメントについて 9. 支援が必要な子どもたちを知る① (発達障害) 10. 支援が必要な子どもたちを知る② (知的障害) 11. 支援が必要な子どもたちを知る③ (身体障害) 12. 支援が必要な子どもたちを知る④ (場面緘黙、てんかん、チック、吃音 など) 13. 支援が必要な子どもたちを知る⑤ (被虐待児、貧困、外国につながる子ども など) 14. 前期のまとめ 15. 支援方法① (応用行動分析) 16. 支援方法② (SST、PECS、TEACCHプログラムなど) 17. 支援計画の立案 18. 発達を促す生活やあそび環境 19. 職員間の協力関係 (事例検討の進め方 など) 20. 家庭との連携 21. 関係機関との連携 (児童発達支援、児童相談所、医療機関など) 22. 支援が必要な子どもたち早期発見と支援 23. 就学に向けて 24. ライフステージに沿った支援 25. 障害へのまなざしと、支援者の心 26～29. 具体的な支援事例を検討する 30. 終講試験 		
評価方法	<p>終講試験で評価。 レポートなどの提出状況を加味して評価する。</p>		
テキスト	<p>「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」 前田泰弘 編著 萌文書林</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	社会的養護Ⅱ 必修・演習・30時間・1単位	教員名	仁木 健次
概要 及び 目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の歴史及びその理念・基本について学習する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について学習する。特に岡山県中央児童相談所等と連携し、里親、養護系施設職員の講話等を通して一層の理解を深める。 3. 社会的養護に関わる支援・技術等について、その基本を具体的に学習する。 4. 社会的養護における被虐待児童のケアと家庭支援について、その基本を学習する。 5. 社会的養護における支援計画、記録、評価の実際について、その基本を学習する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護(Ⅰ・Ⅱ)とは何か - 救済慈善事業等の歴史 - 2. 社会的養護の基本理念 - 権利擁護・個別化・家族支援等 - 3. 社会的養護と保育士 - 施設養護と家庭養護 - 4. 社会的養護のプロセス - 現状と課題 事例を通して学ぶ - 5. 社会的養護 援助と支援の実際 - 養護系施設の日常生活援助 - 6. 社会的養護 援助と支援の実際 - 障がい児系・治療系施設の生活援助 - 7. こころの支援 - 安心と安全・個別化・愛着関係の形成・グリーフケア - 8. 子どもとのコミュニケーション - ポリアンナ・ピグマリオン効果等 - 9. 虐待を受けた子どもへの支援 - 治療的アプローチ 事例を通して学ぶ - 10. 社会的養護 援助と支援の実際 - 県中央児相 里親会 里親出前講座 - 11. 社会的養護 援助と支援の実際 - 家族再統合 事例から学ぶ - 12. 自立への援助・支援 - 自立支援計画・リービングケアとアフターケア - 13. 関係機関・学校・地域との連携 - 事例から学ぶ - 14. 児童福祉施設等管理運営 - 被措置児童の虐待防止と人材育成 - 15. 児童福祉施設等の支援者としての保育士 - チームワーク・専門性と職業倫理 - 		
評価方法	<p>期末試験、課題レポート、リアクションペーパー（授業参加意欲）等により総合的に評価する。 その比率は、概ね7：2：1である。</p>		
テキスト	<p>辰巳隆・岡本慎幸編集「改訂 保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ」(株)みらい</p>		
備考	<p>第8回は、岡山県中央児童相談所等と連携し「里親出前講座」を開催する。 子どもと家庭の福祉の第一線で職務に従事している児童相談所職員、里親及び養護系施設職員等の講話、体験談等を聞くことにより、社会的養護の今日的課題について一層の理解を深める。 必要に応じて資料を配布する。 なお、関係機関との調整上、授業内容の変更はありえる。</p>		


年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子育て支援 必修・演習・30時間・1単位	教員名	室崎 美佐子
概要及び目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に学ぶ。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に応じた支援の内容と方法及び技術を実例等を通して具体的に理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの保育とともにを行う保護者の支援 2. 保護者との相互理解と信頼関係の形成 3. 支援のニーズへの気付きと多面的な理解 4. 子育て支援におけるプロセスの意義 5. 支援の計画と環境の構成 6. 支援の実践 7. 職員間の連携 8. 社会資源の活用 9. 保育所における支援 10. 地域の子育て家庭に対する支援 11. 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援 12. 特別な配慮を必要とする子どもおよびその家庭に対する支援 13. 虐待予防と対応 14. 復習 15. まとめ・テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. レポート 3. 出席状況・受講態度 		
テキスト	必要に応じて資料を配布 中央法規 新基本保育シリーズ 子育て支援 公益財団法人 児童育成協会監修		
備考			

年次・学期	2年次	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもの健康と安全 必修・演習・30時間・1単位	教員名	
概要 及び 目的	<p>子どもの保健で学んだ知識をもとに、子どもの健康管理や発育発達に応じた養護、健康上の問題が生じた倍胃の適切な対処方法など保育現場での実践能力を養う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保育の環境 2. 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 3. 衛生管理 4. 事故防止及び安全対策 5. 災害への備えと機器管理 6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 7. 救急処置及び救急蘇生法 8. 感染症の集団発生と予防 9. 保育における保健的対応の基本的な考え方 10. 3歳未満児への対応 11. 個別的な配慮を有する子どもへの対応 12. 障害のある子どもへの対応 13. 職員間の連携・協働と組織的取組 14. 保育における保健活動の計画及び評価 15. 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習、演習への参加状況 2. 試験 3. 出席状況 		
テキスト	<p>プリント配布 「子どもの保健 演習」中山書店</p>		
備考	<p>実習は、グループに別れて行う予定です。動きやすい服装で参加して下さい</p>		

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習Ⅰ・施設 必修・実習・90時間・2単位	教員名	太田 修平
概要及び目的	<p>児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、児童福祉施設における保育士の専門性、役割や機能を理解させると同時に利用児（者）への理解や職員間の協調性のあり方を模索させ、理論を実践の場で具体化することを目的に、利用児（者）との関わり方など、体験を通して理解できるようにする。</p>		
授業内容	<p><児童福祉施設></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設の生活と一日の流れ 2) 施設の役割と機能 2. 利用児・者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用児・者の観察とその記録 2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 計画に基づく活動や援助 2) 利用児・者の心身の状態に応じた対応 3) 利用児・者の活動と生活の環境 4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別支援計画の理解と活用 2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育士の業務内容 2) 職員間の役割分担や連携 3) 保育士の役割と職業倫理 		
評価方法	実習施設による評価		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 その他必要に応じて資料を配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習Ⅰ・保育所 必修・実習・90時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要及び目的	<p>保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育所における保育士の専門性、役割や機能を理解させると同時に子どもへの理解や職員間の協調性のあり方を模索させる。また、理論を実践の場で具体化することを目的に、保護者の良きパートナーとなり、生活習慣等の自立への支援や、乳幼児の関わり方など、体験を通して理解できるようにする。</p>		
授業内容	<p><保育所></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 2. 子どもの理解・発達年齢の把握 3. 保育内容・保育環境 4. 保育の計画・観察記録・指導案作成 5. 保育の実践・記録 6. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 		
評価方法	実習園による評価		
テキスト	<p>岡山県保育士養成協議会編「保育実習の手引き」 教科書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領<原本> その他必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習指導 I ・施設 必修・演習・45 時間・1 単位	教員名	児童福祉学科教員
概要 及び 目的	保育実習の意義・目的を明確にするとともに障害児（者）施設における保育実習の必要性や保育士の担う役割を学ぶ。また、障害児（者）施設の体系や法的根拠についても理解を深め、保育実習を行なう上で必要となる知識を身につける。		
授業内容	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> ↑ 実習前 ↓ 実習中 ↑ 実習後 ↓ </div> <div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育実習の意義・目的・内容の理解 2) 障害児（者）施策に関する法律・制度の理解 3) 保育実習の方法の理解 4) 実習の心構えの理解、とくに個人のプライバシーの保護と守秘義務、利用児（者）の人権尊重についての理解 5) 実習における計画と実践・観察と記録及び評価 6) 実習課題の明確化 7) 実習記録の意義・方法の理解 8) 実習施設の理解 9) 提出書類の作成 10) 教材の作成 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の担当者との連携を図る 3. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ふり返し発表 2) 実習評価による今後の課題設定 </div> </div>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技試験 2. 課題提出 3. 出席点 4. 受講態度 		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 その他：必要に応じて資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習指導Ⅰ・保育所 必修・演習・45時間・1単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要及び目的	①保育実習の意義・目的を明確にする ②保育実習の必要性や保育士の担う役割を学ぶ ③子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する ④実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする		
授業内容	 <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育実習の意義・目的・内容の理解 2) 保育園・こども園等の施策に関する法律・制度の理解 3) 保育実習の方法の理解 4) 実習の心構えの理解、とくに個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解 5) 実習における計画と実践・観察と記録及び評価 6) 実習課題の明確化 7) 実習記録の意義・方法の理解 8) 実習施設の理解 9) 提出書類の作成 10) 教材の作成 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の担当者との連携を図る 3. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ふり返し発表 2) 実習評価による今後の課題設定 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技試験 2. 課題提出 3. 出席点 4. 受講態度 		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 その他：必要に応じて資料配布		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実践演習Ⅰ 必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>保育者は、豊かな教養と高い人格的資質を備え、専門的知識、技術を身に付けていることが求められる。そこで、研究意欲に支えられたそれらの総合的な能力の素地を培うために、学生は、オペレッタ・創作劇などから選択し、主体的、自発的にそれぞれのグループ活動に取り組む。</p> <p>また、学院祭・ボランティア活動・子育て支援活動において研究の成果を発表する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材研究：様々な教材・教具を使って製作活動に取り組み、保育技術を習得するとともにグループでの上演方法の基礎技能を習熟し、発表の経験を重ねる。 2. 表現方法：音楽的・身体的表現を中心に、オペレッタ・創作劇などに取り組み、様々な役を演じることにより、豊かな表現力や発声方法など身につける。 3. 企画運営：子育て支援事業の内容を考え、準備運営を自主的に行うことでいろいろな役割を分担し、チーム力を高める。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題への取り組み、製作物、課題発表など総合的に評価 2. 出席点 3. 受講態度 		
テキスト	必要に応じて資料を配布する		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実践演習Ⅱ 必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>保育者は、豊かな教養と高い人格的資質を備え、専門的知識、技術を身につけていることが求められる。</p> <p>各教員が担当する研究内容の中から選択し、主体的・自発的にそれぞれの研究課題に取り組む。</p>		
授業内容	<p>設定された科目の中から、学生自身が興味関心を持っている内容を研究のテーマとして1つを選び取り上げ、文献研究や実習での実践、研究発表等を通して研究テーマに関する知識を深め、発表を行う。</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題への取り組み、制作物、課題発表など総合的に評価 2. 出席点 3. 受講態度 		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布する</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	障害児の心理 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	片山 雅博 他
概要及び目的	<p>本講義は、各障害の概念（状態像）や必要な援助について理解を深めるとともに、児童虐待などによる愛着や行動上の問題を理解し、発達の視点からみた障害の意味について考えることを目的とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚 2. 肢体不自由、重度・重複障害 3. 発達障害「ASD - 自閉症スペクトラム障害」 4. 病弱 5. 発達障害「ADHD - 注意欠陥多動性障害と LD - 学習障害」 6. 聴覚障害 7. 構造化 8. 子どもの虐待① 児童虐待とそのリスク 9. 障害の受容と自立 10. グループワーク「発達障害のある子どもへの対応」 11. 知的障害 12. 子どもの虐待② 虐待の影響について 13. 家族支援 14. テスト 15. 解説 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 試験 3. 授業態度、出席点 		
テキスト	<p>必要に応じて指定する その都度、関連資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	障害児の病理と保健 選択必修・講義・15時間・1単位	教員名	
概要 及び 目的	心身に障害を持つ子供たちの病理とそれに関連する身体のメカニズムを解説し、保育士として心身障害児を保育する上で必要な基礎的知識を学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害児の概念と定義 2. 重症心身障害児の診断と評価 3. 重症心身障害児の実態 <ol style="list-style-type: none"> ①重症心身障害時の発生と原因 ②重症心身障害児・者の予後 ③動く重症心身障害児 4. 重症心身障害児の主病態と留意点 <ol style="list-style-type: none"> ①脳性麻痺 ②知的障害 ③てんかん ④心理、行動の問題 5・6. 重症心身障害の主症状と留意点 <ol style="list-style-type: none"> ①運動、姿勢の障害 ②呼吸障害 ③摂食障害 ④排泄障害 ⑤コミュニケーション障害 ⑥行動障害 ⑦その他 7. 重症心身障害児への支援 家族支援 8. まとめとテスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 試験 3. 出席点 		
テキスト	必要に応じて指定する 松本昭子、土橋圭子編著「発達障害児の医療・療育・教育」金芳堂		
備考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	家庭生活基礎 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	児童福祉学科教員
概要 及び 目的	生活全般に関わる身につけたい基礎的な事柄を学び修得する。人と関わる上での所作や技術、日常生活を営む上での生活技術・管理能力（衣・食・住）を学び、学生自身の生活の場や就業先で活かすとともに、保育士として対象となる子ども等への手本となれるよう学習を進める。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活に必要な技術・管理能力について 具体的技術の習得 環境整備 2～4. 伝承行事について①②③ 5. マナーの修得（所作・SNS 利用・電話 など） 6. 伝承行事について④ 7. マナー修得（手紙の出し方 など） 8～9. マナー修得（あいさつ、電話対応など） 10. 環境整備・実践① 11. 伝承行事について⑤ 12. マナー修得（手紙の出し方） 13. 伝承行事について⑥ 14～15. 環境整備・実践② 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 2. レポート 3. 演習点 		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	リハビリテーションの理論と技法 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	
概要 及び 目的	<p>医学・教育・職業及び社会的側面からリハビリテーションについての基本的知識を学ぶ。具体的には、作業療法や理学療法の見学や障害者体験などを通して、一人一人の障害児・者のリハビリテーションに対する理解を深めていく。さらに、障害児・者の自立に向けた社会資源や援助方法を学んでいき、障害児・者の障害及びニーズを理解していく。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法概論 2. 言語聴覚療法 3. 身体障害者のリハビリテーション 4. 小児の言語療法 5. 小児の作業療法 6. 重症心身障害の作業療法 7. 小児の理学療法 8. 発達障害の言語療法 9. 発達障害の作業療法 10. 高齢者のリハビリテーション 11. 理学療法概論 12. 概論 日常生活動作・自助具紹介 13. 食べる機能の発達 14. 重症心身障害の言語療法 15. 試験 		
評価方法	1. 試験		
テキスト	その都度、関連の資料を配布		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと音楽表現A 選択必修・演習・60時間・2単位	教員名	井上 弥生・岡 陽子・大下 論史・ 三徳屋 直子・竹原 裕子・土倉 絢子・ 西本 潤子・福島 悦子・山地 希美
概要 及び 目的	<p>初歩的な単純な曲から自分なりの伴奏、アレンジまで様々な弾き方をきれいに心こめて演奏できるようになることを目的とする。ピアノや歌唱等を通じて、保育の実践展開のための音楽の技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレージング等）を体得する。</p>		
授業内容	<p>A 1～30. 各週の個人レッスンで、それぞれに応じたクラシック様式の教材を用いて、ピアノの基本的な演奏法を習得する。 童謡・唱歌の弾き歌いもおこない、コードネームや和音記号を使った伴奏法を理解できるようにする。 担当教員別による個人レッスンで授業をすすめる。</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 前期・後期（ピアノ・童謡・唱歌の弾き歌い） 2. 出席点 3. 受講態度 		
テキスト	<p>教科書：小林美実監修、井戸和秀編『子どものうた100』チャイルド社 その他：レベルに応じたピアノ教本を各自購入</p>		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと音楽表現 B 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	大下 諭史・大村 由美子・ 三徳屋 直子・西本 潤子・ 松田 美佐枝・山地 希美
概要 及び 目的	初歩的な単純な曲から自分なりの伴奏、アレンジまで様々な弾き方をきれいに心こめて演奏できるようになることを目的とする。ピアノや歌唱等を通じて、保育の実践展開のための音楽の技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレージング等）を体得する。		
授業内容	B 1～45. 「子どもと音楽表現A」で習得したピアノ奏法を基に、曲のジャンルを問わず選曲し、演奏する。 童謡・唱歌はコードネームを使った伴奏法で弾き歌いをおこなう。 担当教員別による個人レッスンで授業をすすめる。		
評価方法	1. 試験 前期・後期（ピアノ・童謡・唱歌の弾き歌い） 2. 出席点 3. 受講態度		
テキスト	教科書：「こどものうた 130 + 20」YAMAHA その他：レベルに応じたピアノ教本を各自購入		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	子どもと体育 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	秋政 邦江
概要 及び 目的	<p>「子どもと体育」の前半では、幼児のケアと発達支援に必要なとなる身体運動に関する基本的な知識を理解して、身体能力や運動技能を高めるとともに、幼児が楽しめる運動遊びに関する教材を作成し、それらに必要な知識や技能を習得する。</p> <p>また、幼児の成長過程における多様な表現を理解し、運動遊びや身体表現による創造性育成の意義を学ぶ。そのうえで、実際の現場で取り上げられる運動遊びや身体表現を行う時の安全を配慮した教材を作成し、それらに必要な知識と技能を習得し、幼児のケアと発達支援の実践に応用することを目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・子どもの身体発育や運動機能についての理解 2. 体づくりとストレッチ 3. 子どもの身体機能の発達と運動遊びの意義 4. 歩く・走る・跳ぶ運動遊び 5. 縄遊び・長縄遊び 6. 子どもの主体性を引き出す運動（心と体の健康） 7. 鬼遊び 8. 手具を使用した運動遊びと指導、使用 9. 伝承遊び 10. 生命感としてのダンスリズム運動 11. ボール遊びのルールと安全対策の指導 12. フープ遊びのルールと安全対策の指導 13. 手具と身体表現 14. 集団遊びの作成 15. 集団遊びの実際 		
評価方法	<p>レポート課題（プログラムの作成）30%</p> <p>プレゼンテーション 60%</p> <p>授業への参加と協力度</p>		
テキスト	<p>内閣府・厚生労働省、文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館（最新版） 授業で適宜にプリントを配布する</p>		
備考	<p>遅刻・早退・見学は3回で欠席1回とする</p>		

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	保育内容応用演習 選択必修・演習・60時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美・ 西原 嘉子 ほか
概要 及び 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことの理解また、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 ・子どもの発達を保育所保育指針における乳児保育の3つの視点（「健やかにのびのびと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と1歳以上3歳未満及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域（「健康・人間関係・環境・言葉・表現」）を通して捉える。そして、現場の経験がある教員から具体的に子どもの生活や遊びについて学び、子どもに対する理解を深める。 ・保育にあたって保育士が留意・配慮すべき事項を具体的に理解する。 ・子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら環境の構成、教材や遊具などの活用と工夫、保育の過程（計画・記録・実践・省察・評価・改善）等の実際について理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 表現力や演技力を磨く エプロンシアター・人形劇・演劇・器楽演奏など、ロールプレイでの授業方法等を活用して演じ方の習得をしていく。 実際に、劇団の演じ手から指導を受け、具体的に学ぶ。 ② 遊びの導入・指導方法について学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌・ふれあい遊び・集団あそびなど導入の仕方と指導方法を学ぶ。 ・発達に即した遊びを理解し、遊びを習得することで、子どもと楽しむ遊び方の実践について学ぶ。 ・いろいろな場面の、導入方法を学ぶ。 ③ 実際に教員による実践例を見ることにより、グループ討議の中で具体的な技術知識を習得する。 ④ 保育や子育て家庭に対する対応・支援のあり方を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して、子どもを取り巻く社会的状況の理解と子どもの背景について学びあい、具体的支援のあり方、保護者対応について実践例から学ぶ。 ⑤ 子どもの自己肯定感を築くための、保育現場における言葉かけの実際を学ぶ。 ⑥ 保育現場でのヒヤリハットから子どもの安全について学ぶ。 ⑦ 子ども同士のトラブルなどの対処の仕方について、事例から学ぶ。 ⑧ 保育現場に働く保育士としての基礎知識や、道徳性・規範性を養う。 また、保育士の倫理について学ぶ。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内の実技・演習及び、レポート提出 2. 授業に取り組む姿勢 3. 出席点 		
テキスト	必要に応じてプリントを配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習Ⅱ 選択必修・実習・90時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要及び目的	<p>保育所やこども園での保育士および実習生指導の経験がある教員、児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、実際の保育現場において保育実習Ⅰを基礎として、次のことを指導する。</p> <p>①保育の基本的な役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもにとっての環境に視点を持ち、観察や関わりを通して保育の理解を深める。 ③保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ④諸教科で学んだ理論との関連性を見出し、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益について学ぶ。 ⑥実習における自己課題を明確化する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 		
評価方法	実習施設による評価		
テキスト	教科書：岡山県保育士養成協議会編「保育実習の手引」 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領〈原本〉 その他：必要に応じて資料を配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習Ⅲ 選択必修・実習・90時間・2単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	<p>児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育実習Ⅰで習得した知識・技術や諸教科で学んだ理論を踏まえて、施設養護に携わる保育士としての指導技術や知識の習得、施設の利用児・者と養護内容の実際、施設の持つ全体的養護機能、さらには保育士としての役割や職業倫理について学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受容し、共感する態度 2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 3) 多様な専門職との連携 4) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 		
評価方法	実習施設による評価		
テキスト	岡山県保育士養成協議会「施設実習の手引き」		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習指導Ⅱ 選択必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ保育実践力を培う。</p> <p>保育実習Ⅰの取り組みをふまえ、保育士の専門性と職業倫理について理解する。又実習事後指導を通して総括と自己評価を行い、課題や認識を明確にする。</p>		
授業内容	<p>↑</p> <p>実習前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2. 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 (3) 模擬保育、教材作成、指導案作成 <p>↓</p> <p>実習中</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 実習中に巡回指導を行い、担当者との連携をもとに、実習生へ助言を行う <p>↓</p> <p>実習後</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 (3) 振り返り発表 <p>↓</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技試験 2. 実習日誌・実習報告書提出 3. 報告会の発表 4. 出席点 5. 受講態度 		
テキスト	<p>教科書：岡山県保育士養成協議会編「保育実習の手引」 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領〈原本〉</p> <p>その他：必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	保育実習指導Ⅲ 選択必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>保育実習Ⅲの意義・目的を明確にするとともに、保育について総合的に学ぶ。障害児者施設及び児童福祉施設の目的や機能、保育内容、養護内容、役割などについても理解を深め、幅広い視点で児童の生活を捉えることができる知識を身に付ける。</p>		
授業内容	<p>↑ 実習前 ↓</p> <p>1. 事前指導として、実習課題の明確化・実習施設の理解を行う。 1) 実習課題の設定 2) 実習施設における見学・オリエンテーション</p> <p>↑ 実習中 ↓</p> <p>2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の担当者との連携をもとに、実習生のスーパービジョンを行う。</p> <p>↑ 実習後 ↓</p> <p>3. 実習後、実習総括・評価を行い、実習報告会を実施する。新たな学習目標を明確化させる。</p>		
評価方法	<p>1. 提出物 2. 出席点 3. 報告会の発表 4. 受講態度</p>		
テキスト	岡山県保育士養成協議会 編「施設実習の手引き」		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	施設基礎実習 選択必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	<p>児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、障害児（者）との触れ合いを通して、障害児（者）に対して保育士としてどのような関わりができるのかを学ばせ、保育士として、広い視野を持って利用者を支援するための力を養うことを目的とする。</p>		
授業内容	<p>【実習施設】 社会福祉法人旭川荘内の各施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川学園 ・愛育寮 ・いづみ寮 ・旭川児童院 ・あおば ・デイセンターあかしや 他 <p>それぞれの施設で利用者との触れ合いを通して、障害児（者）施設の現状や今後の方向性について学ぶ</p> <p>実習前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・目的の理解 2. 実習施設の理解 3. 旭川荘の紹介 4. 実習の心構え 5. 提出書類の作成 6. 課題の設定 7. 記録の意義・方法 8. 介護技術演習 <p>実習中</p> <p>巡回による指導</p> <p>実習後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループによる実習のまとめ 2. ふり返し発表 3. 実習評価を元に今後の課題を明確化する 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト 2. 提出物 3. 出席点 4. 実習施設による評価 		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	保育所基礎実習 選択必修・実習・90時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要 及び 目的	<p>保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、現場指導者と連携しながら、保育所での参加型実習を通して、保育士の役割や子どもの一日の園生活の流れを知る。</p> <p>また、子どもの発達やあそび等について保育園の環境構成について学び、2年次の「保育実習Ⅰ・保育所」に向け、保育所・子ども・保育士について具体的なイメージをもつ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の役割や機能 ・ 保育所の日 ・ 子どもの発達 ・ 保育士の仕事 2. 実習中 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察・参加に基づく保育理解 子どもの心身の発達や活動の観察や理解 保育士等の動きや実践の観察 保育所での子どもの一日の生活を観察する 絵本を読む、手あそび等、実践する ・ 観察記録 3. 実習後 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループによる話し合い ・ 実習のまとめ ・ ふり返し発表 ・ 今後の課題の明確化 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート（実習日誌）・提出物 2. 出席点 3. 受講態度 4. 実習園による評価 		
テキスト	<p>教科書：岡山県保育士養成協議会 編「保育所実習の手引き」 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	レクリエーション援助技術 選択必修・実技・30時間・1単位	教員名	久保園 明美
概要 及び 目的	福祉現場のさまざまな対象者について理解を深め、対象者に合ったレクリエーションのプログラム作りから実践までの力を身につける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. レクリエーション体験 3. 〃 4. 〃 5. 福祉レクリエーション体験 6. 〃 7. 〃 8. 福祉レクリエーション財の開発とアレンジ法 9. 〃 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. ボッチャ体験 14. 〃 15. テスト 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の意欲・態度・出席状況 2. テスト・レポート 		
テキスト	資料を配布		
備考	運動のできる服装（上下）と体育館シューズを準備すること。		

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	障害者スポーツ指導員養成講座 選択必修・講義・15時間・1単位	教員名	上田 千恵 他
概要 及び 目的	<p>老若男女を問わず、人々がスポーツをする目的は、「健康維持・増進」「仲間との交流」「技術を向上させた大会などで試すため」と様々で、健康などに注意が必要な障害がある人のスポーツ活動は、健康な人以上にとっても重要で意味があります。</p> <p>障がいがある人が安心・安全にスポーツを取組める環境、その機会や活動などを理解し、それを支援する知識を深め、振興についても考える。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ振興の理由、障がい者のスポーツ大会 2. 障がい者スポーツの意義と理念 3. 障がい者スポーツ指導とコミュニケーション 4. 障がい者スポーツの推進と障がい者スポーツ指導員の参画 5. スポーツと安全管理 6. 障害の理解 7. 障がい者スポーツ指導の基礎 8. (公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度 9. スポーツの実際 		
評価方法	<p>レポート 授業参加度（出席、受講態度など）</p>		
テキスト	<p>(株)ぎょうせい「障がいがある人のスポーツ指導教本（初級・中級）」 2020年改訂カリキュラム対応</p> <p>必要があれば関連資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	障害児(者)の音楽活動の支援 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	出口 隆一・松本 裕子 他
概要 及び 目的	<p>発達を「援助する」活動として、音楽を媒体として子ども達の情緒に働きかけて、何かを表現する手段としての音楽を実際に体験する。</p> <p>誰もが自由楽しめる音楽活動を能動的に捉えることができるようにする。</p>		
授業内容	<p>1～2. 旭川荘での音楽を通した活動・内容・目的</p> <p>3～4. 障害の特性と理解</p> <p>5～10. 和太鼓を通した音楽活動の実際</p> <p>11～12. 発表行事に向けての練習</p> <p>13～15. リズム運動、音楽鑑賞等を通した音楽活動の支援の実際</p>		
評価方法	<p>1. 出席点</p> <p>2. レポート提出</p> <p>3. 受講態度</p>		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布</p> <p>DVD鑑賞</p>		
備考			

